

## タイトル：武庫川団地のコミュニティ活動 団地管理役の取り組み

講師：堀内幸次郎（UR都市機構団地管理役）

コメンテーター：貴山好江（社会福祉協議会鳴尾支所高須分区副分区長）

司会：増永理彦

実施日：9月20日（土）13：30～16：30

実施場所：武庫川団地12号棟集会所

参加者：約30名

### ●団地と堀内さんの紹介・・・増永

武庫川団地は西日本最大のUR供給超高層3棟を含む高層団地で、住宅は32棟7236戸（5643戸＝23棟の賃貸と1593戸＝9棟の分譲）から成り立っています。施設として、保育所3、幼稚園2、小学校3、中学校2、高校1および各種の商業、シビックセンターなどですが、団地居住者は16000人ほどになります。1976年に建設が始まり、1979年入居開始、1990年には団地完成しています。今では考えられない建設、募集そして管理のスピードです。特に1979年の4月には1520戸の賃貸住宅にいっせいに入居しています。当時の阪神間での驚異的賃貸住宅需要圧の高さがわかります。完成後都市内での需要圧が全般的に減少し、分譲マンションへのシフト、単一の大量供給・床面積も大であることなどが災いし、需要が低迷して空家が続出。空家対策が最重要課題となりました。

2000年ころから、入居の促進と団地の再整備のためにURによって、再生のための研究会が立ち上がり調査研究もはじめられました。そのなかで2009年に生まれたのが「団地管理役」であり、UR職員の堀内さんが担当することになったわけです。その後団地管理役が「団地マネージャー」呼称され、今年からは、関西を大阪、兵庫、奈良・京都の3地域で、エリアごとに団地をマネジメントする組織体制の改革が行われました。ただ、武庫川団地だけは、なぜか団地管理役も配置されています。

堀内さんはこの5年間ほど、武庫川団地で管理役として、実に熱心に団地内の居住者や地域の福祉関連役員あるいは小中学校との連携で、団地内の随所に草花や野菜を育てまち育てを実践しておられます。とりわけ、団地の緑地空間を季節の花で彩りをつけようという企画は秀逸です。この活動を通じて、子どもや高齢者に喜ばれ、団地の雰囲気居心地のいいものに育てています。

イギリスの絵本に「プラムおじさんの楽園」というのがありますが、まさしく堀内さんは武庫川団地のプラムおじさんであります。

### ●講演概要

#### 1 武庫川団地は自然に恵まれている

・46haの広大な敷地を有し、入居委荒い35年経過した武庫川団地では、木々・草花なお生い茂り、森のようであり、緑や生き物に恵まれている。また、広いグラウンドもあって、幼児から青年まで子どもたちの遊び場にも事欠かない

## 2. 団地内のくらしが楽しくなることは何でもやる

・団地中心部分を中心に草花だけでなく、サイン計画、展示場所、子どもの遊び場所、高齢者支援、サークルやイベントの場、防災・コミュニティ活動拠点、アートなど屋外での取り組み場所は30か所にも及んでいる

## 3. 空き施設の解消へ

・メルカードの空き施設を居酒屋＝居場所に転換。「たのしい食堂 おいしい広場」も。ここで講演会のあと懇親会実施。

## 4. これまでの活動を振り返ると・・・

・地のくらしのなかで、URの仕事だけでは見えなかったものが見えてくる  
・広い団地ではあるが、やることは何ぼでもあるし、どんどん増える。ただ、一人では無理  
・ものの見方が変わっていく・・・いろんなのが教材や資源に見える。せみの抜け殻も肥料に見える、団地であそぶ子どもはその「肥料」を「集める人」に見える

## 5. 里山をつくる

・堀内さんだけの活動ではないが、市民センター北側（立体駐車場南）に里山を創る計画がある（2015年度着手）。確かに、このあたりは整備ができておらず、デッキの上からよく見える場所でもあり、何らかのリニューアルが必要である。完成後の里山管理には基金が必要で、堀内さんも奮闘中とのこと。

## 5 貴山さんのコメント

・堀内さんの活動はすばらしい。また、武庫川団地で居住上のトラブルや問題が起きたら、相談すると、即解決の方法を考えてくれる。

## 6. 巽先生の遺言

・再生の研究会の主査をされていた巽先生（元京大教授）は、「私は堀内さんのファンです。住民の方が喜んでくれる仕事をみて、今後とも楽しみに期待している」とおっしゃったそうです。

## ○サプライズ

・参加者一人ひとりに、活動の記録の入ったファイルだけでなく、丹精をこめて堀内さんが創作した手ぬぐい、お菓子、押しピンなどのお土産をいただいた。

（文責：増永理彦）